

B-51 大気汚染ガスの染色被服に及ぼす影響 IV - 酸性染料による染色物に対するSO<sub>2</sub>の影響-  
東京家政大家政 ト部澄子

目的 過去の実験条件内では、大気を汚染するガスのうちSO<sub>2</sub>、CO、NO<sub>2</sub>は、染色した被服の色に目立つた影響を与えない事が判つたが、この点を更に追求する為、次の検討を行った。(1) 酸性染料を、違った化学構造別に選んで試験布を染色し、ガス曝露を行う。(2) 曝露した試料間の、染色堅ろう度の差、色相の変化の状態を見る。

なお、今回はSO<sub>2</sub>ガスの場合について報告する。

方法 A. 試料 (1) 試験布：羊毛、絹、ナイロン (2) 染料：アゾ系、アントラキノン系より8種を選ぶ (C.I. Acid Yellow 17, Acid Red 37, 111, 114, Acid Green 41, Acid Blue 17, 127, Acid Brown 2, 総べて化薬酸性染料を用う) B. 実験方法：前報Ⅲに同じ。ただし、試験布のガス曝露は、10日、30日、90日間連続して行い、途中洗濯は行なわない。C. 試験項目：染色物洗濯堅ろう度試験 (JIS, L-1045ビーカー法による)、耐走堅ろう度試験 (JIS, L-1044フェドメーター法による)、引張り強伸度試験 (テンシロン万能型引張り試験機UTM-II型により測定)、色相の測定 (日立分光光度計ERR-2型により測定) 曝露前、後の試験布を以上の諸項目に従って検討した。

結果 (1) 耐走堅ろう度に於て、アゾ系染料が曝露により堅ろう度が低下し、アントラキノン系はかえって強くなった傾向が見られた。(2) Milling染料の試験布が、ガス曝露により引張り強伸度が落ち、色が目立ち、未染色布はガスの影響を受け易かった。

(3) 本実験では供試染料の数が少く、この結果から、ガスの影響についての化学構造上の系統的結論を下すことは早計であり、難かしく、研究続行の必要が考えられた。